

データベースの概要

薬品を使用した際に影響が出る可能性のある検査と、薬品の使用中に実施が必要な検査に関するデータベースです。

データベースの特徴

薬品の使用により影響が出る検査

薬品を使用したことにより臨床検査値が変化する可能性のある検査の情報を保持しています。

例

『ガストログラフィン経口・注腸用』の添付文書（抜粋）

【臨床検査結果に及ぼす影響】

本剤投与により、**甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる検査に影響**を及ぼすおそれがある。したがって、これらの検査は本剤の投与前に実施すること。

表示例

甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる検査に影響

薬品の使用時に必要な検査

薬品の使用前・中・後に実施が必要な検査の情報を保持しています。

例

『パナルジン錠100mg』の添付文書（抜粋）

【警告】

血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）、無顆粒球症、重篤な肝障害等の重大な副作用が主に投与開始後2ヵ月以内に発現し、死亡に至る例も報告されている。

投与開始後2ヵ月間は、特に上記副作用の初期症状の発現に十分留意し、原則として**2週に1回、血球算定（白血球分画を含む）、肝機能検査**を行い、上記副作用の発現が認められた場合には、ただちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。本剤投与中は、定期的に**血液検査**を行い、上記副作用の発現に注意すること。

【重大な副作用】（頻度不明^注）

血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）（主徴：血小板減少、破碎赤血球の出現を認める溶血性貧血、動揺する精神・神経症状、発熱、腎機能障害）…TTPがあらわれることがある（特に投与開始後2ヵ月以内）ので、観察を十分に行い、TTPの初期症状である倦怠感、食欲不振、紫斑等の出血症状、意識障害等の精神・神経症状等が出現した場合には、ただちに投与を中止し、**血液検査（網赤血球、破碎赤血球の同定を含む）**を実施し、必要に応じ血漿交換等の適切な処置を行うこと。

表示例

投与開始後2ヵ月間は、2週に1回、血球算定（白血球分画を含む）、肝機能

血液

血液検査（網赤血球、破碎赤血球の同定を含む）

データベースの機能

薬品と検査の確認

臨床検査値が変化する可能性のある薬品の情報を取得できるため、処方する際や検査を行う際の注意情報としてご利用いただくことが可能です。

また、薬品の使用時に必要な検査に関する情報を取得できるため、薬品の適正な使用のための参考情報としてご利用いただけます。

